

公益社団法人 NEXT VISION
令和2年度事業報告書
(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

I. 実施事業

1. 視覚障害者に対する直接支援事業（公益目的事業①）

（1）当事者向け講座、セミナー事業 ビジョンパークチャンネル
遠隔で当事者、家族、支援者への情報提供を行い、地域性による情報格差を軽減し、全国の情報障害者を減らします。

1) ビジョンパークチャンネル

● iPhone・iPad 活用ラウンジ

- 2020/5/22 ロービジョン者の iPhone・iPad の便利機能
拡大して見やすくするアプリ、Siri による音声操作の紹介など
参加者：31 名
- 2020/6/29 シャベって使う iPhone の機能やスマートスピーカーの活用
スマート家電、コロナ禍の買い物やメガネ型スピーカーなど
参加者：17 名
- 2020/7/27 読むこと、書くこと、描くこと、見ることに活用
どう使って目的を達成するかの工夫、合わせ技も紹介
参加者：13 名
- 2020/8/24 ネットの情報バリアの現状から便利な情報まで皆様の質問に回答
文字をテキストに変換する LINE の機能や使いやすい Web ページの紹介
参加者：64 名
- 2020/9/28 ウェアラブルデバイスによるヘルスケアの話題まで皆様の質問に回答
英会話上達の活用法、テレワークの課題、音声家電など
参加者：56 名
- 2020/10/26 ゲスト：園 順一 参加者：59 名
- 2020/11/30 ゲスト：井上直也 参加者：62 名
- 2020/12/14 ゲスト：若宮正子 参加者：65 名
- 2021/1/9 ゲスト：谷口 遥 参加者：65 名
- 2021/2/15 ゲスト：御園政光 参加者：151 名
- 2021/3/29 ゲスト：品川博之 参加者：165 名

（総評）

コロナより5月以降ビジョンパークでの現地開催から zoom をつけたオンライン開催へと変更しました。現在多くの方にテクノロジーリテラシー向上もあり毎回150名以上の参加があり、エリアを問わない情報処方が行えています。前半のスペシャルゲスト対談パートと後半の井上講師によるオンライン指導の時間を分けることでより満足度が高くなったと感じています。今後は医療者や支援者も含めてより多くの方に周知を広めていきたいと思っています。

2) NEXT VISION セミナー

- 2021/2/25 網膜再生医療の進展（医療従事者向け）講師：高橋政代 参加者：222 名
2021/2/26 網膜再生医療の進展（一般向け）講師：高橋政代 参加者：349 名

（総評）

新型コロナウイルス感染拡大対策のためビジョンパークにおけるセミナー開催は困難と判断し、オンラインでの開催となりました。結果的に医療従事者向け、一般向けともに全国から参

加があり、盛況となりました。対面によるセミナーの魅力はありますが、参加者の利便性を考えると新型コロナに関係なく、今後もオンラインによるセミナー開催は継続する価値があり、今後はハイブリッドにより開催を検討したいと考えます。

また、コロナ禍であっても人々が必要とする情報は変わらず存在し、コロナ禍だからこそ適時の情報提供が必要であると考えられることから、次年度以降は定期的なセミナーの開催を行う予定です。

3) 「私の見え方・見えにくさ」伝え方講座

本講座は対面での講習となるため、新型コロナ感染拡大対策のため開催できませんでした。

(2) 当事者向け体験事業

見えない・見えにくい方を対象として、スポーツや映画鑑賞など様々な文化体験をしてもらい、晴眼者と同じように趣味や生きがいを見つけて社会生活を楽しむ機会を設けることで、見えない・見えにくい方の社会復帰、社会の戦力化を支援する活動等を行います。

1) クライミング

(総評)

本年度はコロナに伴い実施することはできませんでしたが、コロナが落ち着くまでは開催は難しい状態は続くと考えます。コロナの収束をただ待つのではなく、ビジョンパークの象徴であるクライミングウォールを背景として今後も運動や趣味に関わる情報発信を行えればと思っています。

2) 体幹トレーニング (オンライン開催)

2020/4/30	参加者：14名
2020/9/4	参加者：28名
2020/10/16	参加者：26名
2020/11/6	参加者：30名
2020/12/11	参加者：23名
2021/1/15	参加者：32名
2021/2/12	参加者：35名
2021/3/26	参加者：32名

(総評)

見えない、見えにくい方だけでなく、コロナ禍では外出制限やリモートワークの増加により運動の機会が減りました。ビジョンパークにおいて体幹トレーニングを対面で実施することは難しくなりましたが、オンラインを活用し画面を通して、あるいは音声のみで運動を行っていただくことができました。

床に座って行うだけでなく、イスに座ったままできるので、ご自宅だけでなくオフィスや病院の待合室など外出先からの参加者がいました。本トレーニングがコロナ禍に健康維持・管理に役立ったことは参加者からの感想や参加人数の増加と安定からわかります。今後も場所を問わず、年齢や性別に関係なく、どなたでも短時間(30分)で行える体幹トレーニングは心と体の健康維持・増進の役割を担っていきます。

3) 副音声ガイド付き映画上映体験会

本事業はビジョンパークにおいて多人数での開催となることから、新型コロナ感染拡大対策のため開催できませんでした。

4) e パラスポーツ

2020/10/31 参加者：22名

(総評)

社会処方の一環として、ゲームを通じたコミュニケーションや社会参加を支援する企画。視覚障害者や肢体不自由の当事者たちによるアイデア集を共有することに始まり、ゲームが持つ社会性や教育効果について当事者である教育者や当事者とゲームのアクセシビリティ機能の現状や今後の期待などを3時間に渡り対話しました。本企画を通して確かな手応えを感じており、今後社会的処方箋としてゲームの教育効果や社会的・心理的回復効果を検証していく予定です。

5) チャレンジド・ヨガ（オンライン無料体験会）

2020/6/4 参加者：21名

2020/7/28 参加者：12名

2021/2/18 参加者：27名

2021/3/11 参加者：37名

(総評)

コロナ禍における運動不足の解消およびお話しする交流の機会のニーズが高まったことからチャレンジド・ヨガの協力を得て、オンラインで体験会を開催しました。ヨガ未経験者も外出することなく自宅で気軽に楽しめました。

また、チャレンジド・ヨガは視覚に障害のある方でもわかりやすいようインストラクターが言葉のみで動きやポーズの説明をするので、高齢者にもわかりやすいと好評でした。

(3) カウンセリング事業

見えない・見えにくい方の生活を多角的に支援するため、見えない・見えにくい方を対象とした座談会・相談会を開催し、社会資源の活用方法や補助具等に関する各種情報提供し、患者同士のコミュニケーションの場の提供等に取り組みます。

1) 「ロービジョンの集い」の開催

内容：見えない・見えにくい当事者を中心にご家族や支援の専門家などが集まり、日常生活での困りごとや情報の共有を行うほか、誰もが気軽に相談ができる集いの場を提供しました。

開催方法：オンライン

対象：視覚障害者、一般 全10回の総参加者数：321名

2020/5/26 ころとからだの健康を考える集い 参加者：17名

2020/7/28 将来の夢や進路を考える集い 参加者：9名

2020/8/5 薬剤師さんに聞く！お薬のあれこれ 参加者：13名

2020/9/29 家事や趣味を楽しむ集い 参加者：17名

2020/10/20 With コロナ生活を安全に楽しみましょう！ 参加者：26名

2020/11/24 人生を語り楽しむ集い 参加者：30名

2020/12/22 私たちの生活を変える！ナビレンズ(Navilens)を使ってみよう!!
参加者：56名

2021/1/26 見えない、見えにくい子どもさんを持つ親の集い 参加者：20名

2021/3/17 電子図書館利用法・活用法 参加者：65名

2021/3/30 仕事や家族のことを考える集い 参加者：68名

(総評)

コロナ禍でビジョンパークでの開催ができなくなり、2020年3月に続き4月も休止しましたが開催を希望する声があったことからオンライン開催に切り替えました。ビジョンパークで開催していた時には定員が10名ということもあり、参加人数が10から15名程度でしたが、オンラインに切り替えたことで参加者が増え、人数だけでなく参加者の居住地

も北海道から沖縄まで全国に広がりました。

また、ロービジョンの集いは視覚障害者だけでなくその家族や友人知人が参加することが多かったのですが、就労している世代の参加は少ないのが課題でした。しかし、オンラインに切り替えたことで、職場からあるいは空き時間に参加が可能となり、「耳だけ参加」という聞くだけの参加者が出てきました。

視覚障害者は孤独を感じやすく、孤立しやすいと言われてきましたがコロナ禍においてはだれもが強制的に孤独、孤立を感じる環境に置かれ、一日中誰とも話さなかったという方もいました。

今年度のロービジョンの集いは、これまでのじっくり話をするという形式とは少し異なりましたが自宅や職場から自由に話せる場所をオンラインで提供することで、同じ障害や悩みを持つのは自分一人ではないことを知り、仲間がいる安心感が得られたと考えます。

コロナ禍では視覚に障害があるからこそ知りたい情報、社会の変化などテレビやラジオからは得られない情報があり、自宅や職場に居ながらにして得られたことが喜ばれ、最新のデバイスの紹介なども滞ることなく発信できたと思います。

コロナが収束してもビジョンパークでの対面での開催だけでなく、オンライン開催の必要性を感じており、次年度以降の開催方法をハイブリッドにすることを検討します。

2) 相談コーナーの運営

神戸アイセンターでは、「神戸アイセンター×ビジョンパーク連携カード」という連携カードによって神戸アイセンター病院の医師や視能訓練士、看護師などがロービジョンに関する情報提供が必要と感じたときに連携カードを発行する取り組みを行っています。

しかし、今年度はCOVID-19の感染拡大防止対策としてビジョンパークの休館を余儀なくされ、それに伴い相談様式の変更が必要となりました。

具体的には下記の通り、電話やICTを活用した相談対応を行いました。

※下線ありはビジョンパークにスタッフ不在（リモートワーク）の期間

● 4月1日～5月31日 ビジョンパーク全面休館、ビジョンパーク受付に設置したiPadと電話による対応（写真1）



（写真1）ビジョンパーク受付

● 6月1日～7月17日 通常対応

● 7月18日～8月31日 ビジョンパーク全面休館、ビジョンパーク受付設置したiPadと電話による対応

● 9月1日～12月14日 ビジョンパーク開館、スタッフによる対応とビジョンパーク受付に設置したiPadによるハイブリッド対応

● 12月15日～2月5日 ビジョンパーク一部締切、ビジョンパーク受付に設置した

相談受付用 PC (写真 2) とは別に相談専用コーナー 2 か所 (写真 3) を設置、電話による対応

※1月15日より連携カード読み取り用のスキャナを追加設置、2月1日より資料印刷用プリンタを追加設置



(写真 2) ビジョンパーク受付 (PC)



(写真 3) 相談専用コーナー

●2月6日～3月31日 ビジョンパーク一部締切、感染防止対策としてアクリルボード設置、スタッフによる対応とオンラインによる受付 (写真 4)、相談専用 PC (写真 5) のハイブリッドで相談対応



(写真 4) ビジョンパーク受付 (PC)



(写真 5) 相談専用コーナー

今年度の相談件数は473件 (月平均39.4件) で、うち連携カードによる相談が159件、連携カードなしの相談が314件でした (表1)。連携カードによる相談が減った原因はオンラインでの対応となったことで病院側から連携カードの発行が少なくなったことが一因と考えられます。実際に、先生方からも受付にスタッフがいない状況では患者さんを紹介しにくいというお声をいただきました。

全体の相談件数としては2019年度の788件 (表2) と比較すると約60% (前年度比40%減) となっており、相談件数が減少したことはビジョンパークの休館やオンライン対応になったことが大きな要因と言えます。

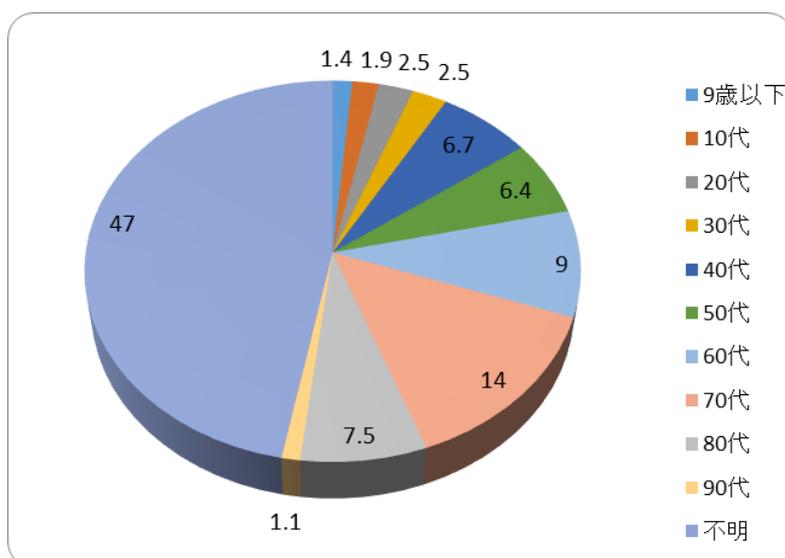
しかし一方で、スタッフが常駐していない期間の相談 (オンライン対応) であっても、連携カードを持たない方の相談があったことから患者さんは相談を必要とされ、オンライン相談を実施できたことがわかります。これは、世の中でオンライン (リモート) が一般的になり、患者さんにもニューノーマルとして受け入れられた結果と考えられ、徐々に相談件数が増加しました。また、外部からの相談についてはビジョンパークの休館に伴い、人の移動を抑えるためにも積極的に電話での相談をご案内した結果、前年まで一定数あった外部の病院・クリニックからの紹介患者さんの相談は減少したと考えます。

(表1) 相談件数

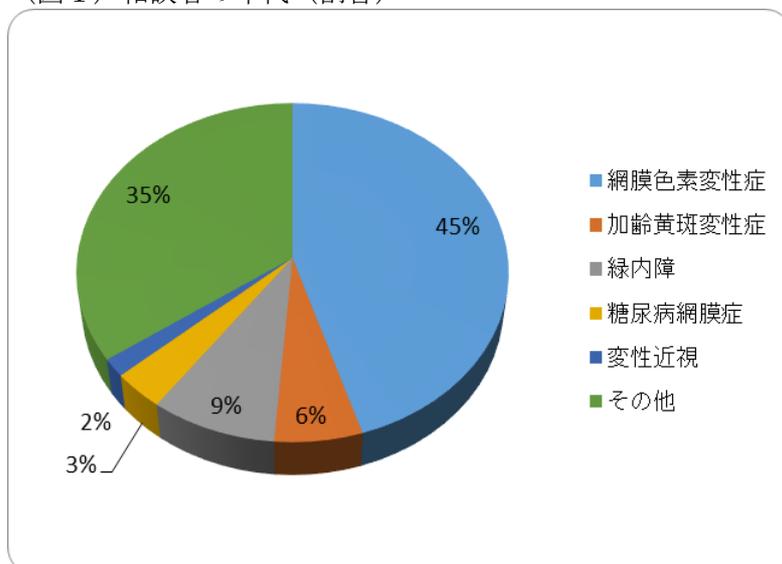
(単位：件)

	2020										2021			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
カードあり	7	1	6	11	1	15	22	31	17	4	20	24	159	
カードなし	9	7	30	10	13	30	48	60	25	19	25	38	314	
小計	16	8	36	21	14	45	70	91	42	23	45	62	473	

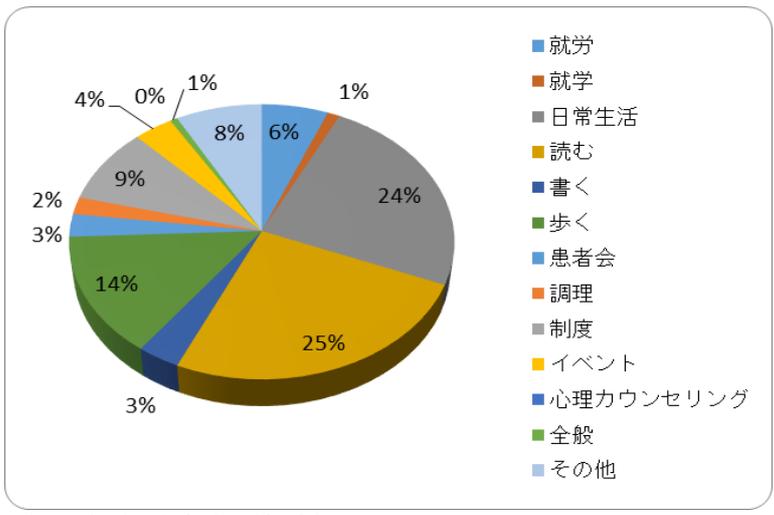
また、対応した相談者の年齢（図1）、疾患（図2）及び相談内容（図3）は多岐にわたるため、ご紹介する支援機器や用具（図4）も多岐に渡りますので図を参考にしてください。



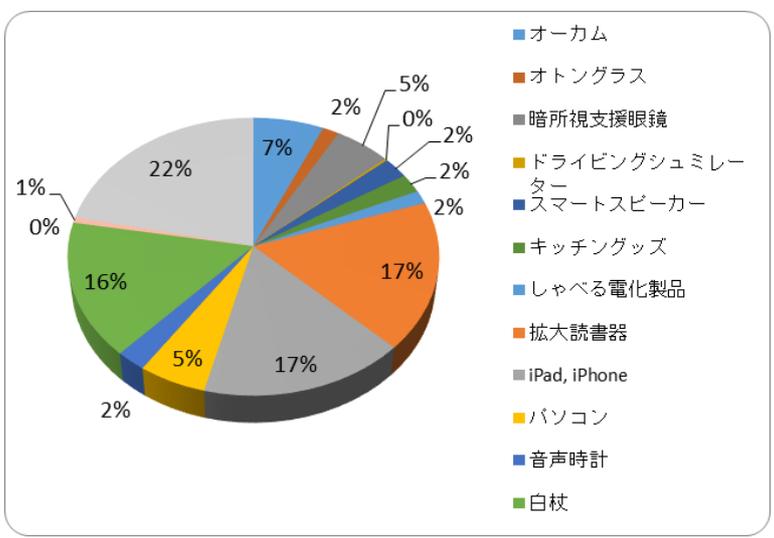
(図1) 相談者の年代（割合）



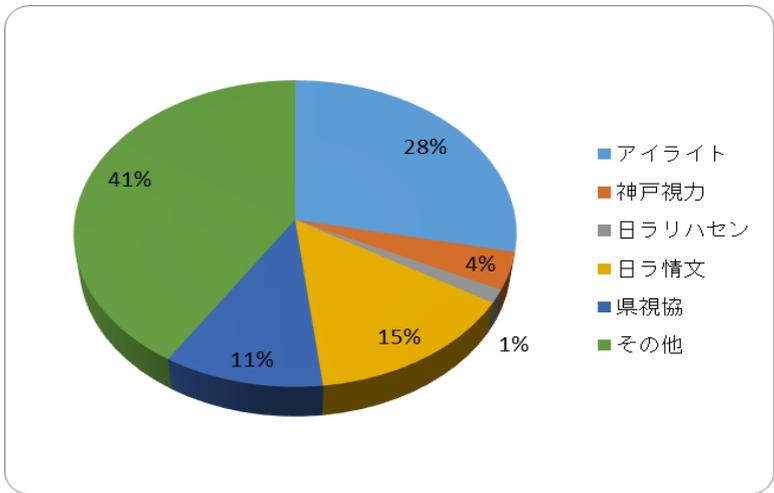
(図2) 相談者の疾患名（割合）



(図3) 相談内容 (割合)



(図4) 紹介した支援機器・用具 (割合)



(図5) 紹介した支援機関・団体 (割合)

3) 相談コーナーの運営（協力団体・機関との連携）

21の協力団体・機関と連携して実施する相談業務については148回でした（表3）。

これはCOVID-19感染拡大対策として各団体・機関がアウトリーチ活動を自粛したり、人員不足などそれぞれの事情で対応ができないことが原因であり、2019年の開催回数332回と比較すると45%（前年度比約55%減）となっています。

（表3）支援協力機関・団体と相談コーナー開催数（単位：回）

団体名	実施回数
網膜色素変性症協会（生活とピアサポート）	34
神戸アイライト協会（生活・就労相談）	9
日本ライトハウス情報文化センター（生活相談・サピエ体験）	4
日本ライトハウスリハビリテーションセンター（生活・就労相談）	4
神戸視力障害センター（生活・就労相談）	4
Gラウンジ（iPhone/iPad相談）	0
神戸市立盲学校（教育・就労相談）	11
兵庫県立視覚特別支援学校（教育・就労相談）	9
きららの会（若年層の生活・就労相談）	1
堺市立健康福祉プラザ（生活相談）	2
兵庫県立視覚障害者福祉協会（生活・就労相談）※	29
きんきビジョンサポート（生活・就労相談）	4
アイコラボ（AIスピーカー相談）	0
神戸市立点字図書館（生活相談・サピエ体験）	6
障害者就労移行支援事業所サンヴィレッジ（就労相談）	2
兵庫盲ろう者友の会（生活相談）	7
システムギアビジョン（拡大読書器体験）	11
FQJapan（e-Sight体験）※日によって予定の名前が異なるので注意	0
兵庫県立点字図書館	0
大阪府立大阪北視覚支援学校	0
視覚障害者就労相談人材バンク相談	11
合 計	148

他機関と連携した相談を継続するために、ビジョンパークにいる患者さんと外部機関をオンラインで結んで相談を行えるよう、12月15日からはビジョンパーク内に相談専用のPCを設置し、オンラインを導入していない支援機関等には使い方のサポートなどを行いました。

それにより、オンラインでの相談を実施する団体・機関が少しずつ増え、最終的に7団体がビジョンパークに来ることなくオンラインによる相談を実施するようになりました。また、2団体は準備を進めており、2021年度以降はオンライン対応が可能となる予定です。

他機関においても対面での相談が難しく、行っているところでも予約制や人数制限などがあり、相談を希望する人がすぐに対面相談をできる状況ではありません。オンラインによる相談はそういった状況であっても相談を行える手段として今後も定着すると考えられます。今後も他機関と連携して、対面でなくても必要な時に相談を実施できるよう、体制を整えていきます。

(総評)

今年度は COVID-19 に翻弄された 1 年で結果だけを見ると相談件数が減り、相談業務としての成果は低いと感じるかもしれません。しかし、人類がはじめて体験することになった COVID-19 の感染拡大という状況の中でも新しい相談様式を検討し、できることから始め、既存のサービスや資源を活用してシステムを構築できたことはひとつの成果であると考えます。

今後も継続すると思われる COVID-19 感染対策、さらには地震や台風などの自然災害時にも活用できるオンライン相談は遠隔診療にも応用できる可能性があります。神戸アイセンターが打ち出している眼のワンストップセンターとしての機能を持続させるためには、オンラインの活用が有効かつ必要不可欠ではないかと今年度の取り組みの中で感じました。

研究・治療だけでなく、ロービジョンケアが医療従事者にとってハードルの高い、難しいものであっては普及しません。いちばん重要なのはロービジョンケアが必要な患者に、必要な時につながることで、同時に医療従事者が無理をせずにできることです。

それを実現できるということを実感できた 1 年でしたので、このオンラインを活用した相談システムの取り組みについては視覚障害リハビリテーション研究発表大会（2021 年 8 月 12 日から 9 月 12 日、WEB 開催）において発表する予定です。その発表を通して、治療・研究だけでなく同時に必要となるロービジョンケアの重要性をお伝えしたいと思います。

4) 遠隔相談

一般眼科に通院する視覚障害者に対してテレビ電話を介して情報提供に取り組みます。本事業は、理事の仲泊が 2017 年度～2020 年度に AMED 研究事業として行いました「ICT を活用した寡少専門家による地域・在宅ロービジョンケア」で培ったサービスシステムを当法人に対して高額寄付を行なった眼科医療機関に呼びかけて行うものです。

(総評)

一部の眼科医療機関への勧誘をしましたが、実現には至りませんでした。また、コロナ禍でビジョンパークが稼働しなくなり、参加していただく福祉担当の調整も困難で、本年度での施行を見合わせました。しかし、コロナ禍で培った通信技術を用いて、今後更なる勧誘を行い、次年度での実践について検討していきたいと考えております。

(4) 研究開発事業

情報化社会が進む中で見えない・見えにくい方の生活・就労支援に寄与する最新テクノロジーに関する研究開発を行い、その成果を社会還元することにより、見えない・見えにくい方の社会復帰・社会戦力化支援に資することを目的とします。

1) 視覚ダイナミックレンジテストの有効性評価

東海光学株式会社との共同研究契約を基盤として、大阪大学、新潟大学、獨協大学、慈恵医大および神戸アイセンター病院による多施設共同研究を企画、2020 年 8 月末を期限として施行しました。その成果を日本ロービジョン学会で発表し、さらに JAPANESE JOURNAL OF OPHTHALMOLOGY 誌に報告しました。同共同研究は予定期間をもって終了しましたが、これで得られた技術を用い、神戸アイセンター病院でデータ採取を進め、それをもとに日本眼科学学会で発表いたしました。今後は、新たな研究事業として同病院との共同事業として継続する予定です。

2) 視覚障害者の転落事故低減を目的とした電子式歩行補助具の空間認識技術の研究開発
JR 西日本あんしん社会財団の研究費助成金によって行っている九州工業大学石井研究室との共同研究です。単年度助成を3年連続で受託しました。視覚障害者安全つえの機能拡張として、杖先の障害物または落ち込みの検知が可能で、その情報を振動で知らせるものを目指しています。本年度は、赤外線センサーを赤外線を用いた距離画像を取得するカメラに置き換えて、装置の精度向上を図りました。本結果については、日本ロービジョン学会および感覚代行シンポジウムで報告しました。なお、本研究助成は、一旦終了となりますが、コロナ禍による特例で、2021年8月まで研究事業を継続することになっています。

(総評)

研究開発事業としては、企業との共同研究契約に基づき、アカデミアとの連携のもと上記2種を行いました。1)は、学会発表と論文作成を行いました。2)は、2年目までの経過を学会発表しましたが、センサーを大胆に置き換えたため、被験者実験には至らず、当初の予定からは遅れ気味です。今後も新たな研究を新たなパートナーと企画遂行して参る所存です。

2. 視覚障害者に対する間接支援事業（公益目的事業②）

（1）コンテスト事業

1) isee! "Working Awards"2021

今年で5回目となる「isee! "Working Awards"」は、「就労」に焦点をあて、視覚障害者（見えない、見えにくい人）がどのように働いているのか【事例】、また、どうすれば働けるのか、あるいはどんな働き方ができるか【アイデア】を募集しました。

応募された【事例】と【アイデア】を審査員に選んでいただき、広く社会に発信することで、視覚障害者の社会参加、就労、ひいては社会の戦力として働き、社会の損失を軽減させることを目的としています。

今年の応募数は、51件で、内訳は、事例部門が22件、アイデア部門が29件でした。事例部門及びアイデア部門いずれも増加し、これまでの応募数を上回りました。

審査の結果、事例部門の入賞が5件、事例部門の入選が12件でした。また、アイデア部門の入賞が5件、アイデア部門の入選が13件でした。

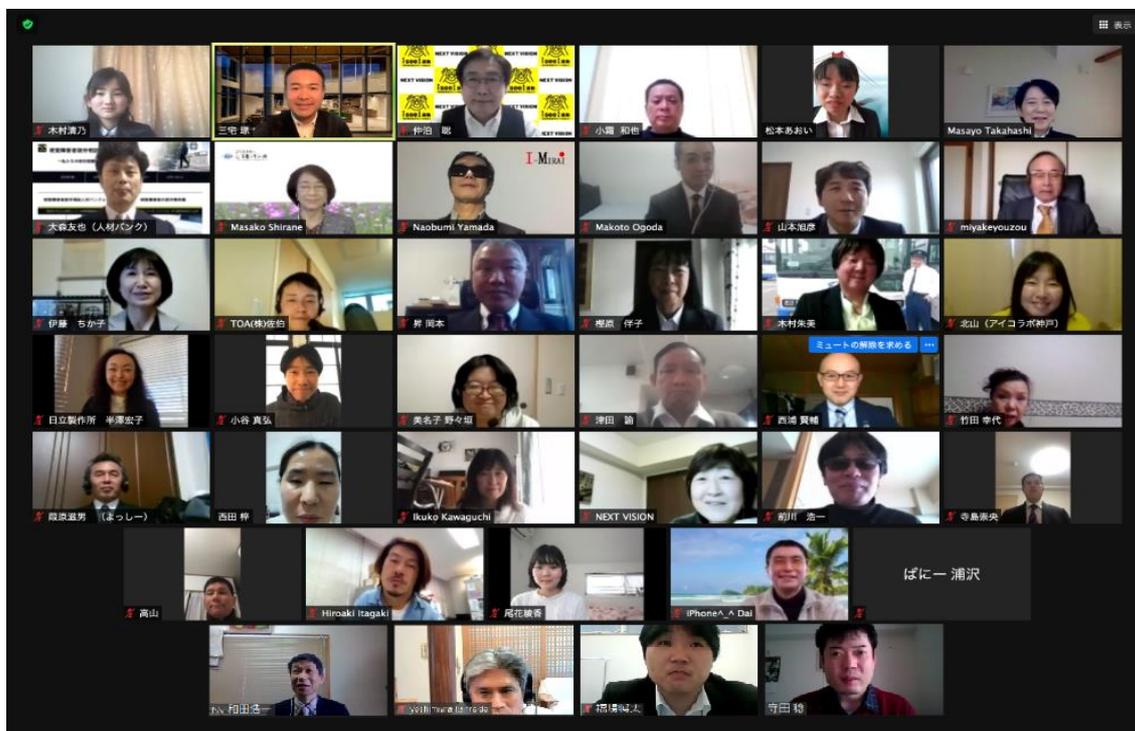
事例部門入賞者（5名）				
No	応募者	種別	タイトル	受賞名
1	守田 稔	個人	欠格条項改正が開いた希望の扉～願いは「全盲でも医師になりたい」へ～	MIP賞
2	ばにー浦沢	個人	当事者が描くロービジョンが主人公の恋愛漫画～エンタメにおけるロービジョン周知と啓蒙	MSP賞
3	吉村文雄	個人	社長業は視覚障害者の適職のひとつです。そうなるよう五感コミカ！T力を高めます。	MEP賞
4	NPO法人アイ・コラボレーション神戸	団体	わたし達の未来をつくるアイデアソン・ハッカソン	METP賞
5	日立インクルーシブな みらいプロジェクト	団体	日立インクルーシブなみらいプロジェクト 誰も取り残さない未来の実現を目指して！	MIP賞 日本眼科医学会賞
事例部門入選者（12名）				
1	川口 育子・荒牧 友佳理	個人	美しい声で日本のビジネスシーンに革命を！日本初の視覚障害者専門ナレーション事務所	入選
2	大脇多香子	個人	「大好きな接客業は私の天職！経験とつよみが自分らしさの土台！！」～あきらめないとはどういうことなのか…次の世代へ繋がるメッセージを届けます～	入選
3	株式会社わかき生活	団体	「仕事に対する考え方を改めて、『モノコト事業』で社会の役に立ちたい」	入選
4	ブラインドオンラインサービス	団体	視覚障害者向けオンラインミーティング開催・参加支援	入選
5	長谷川 和美	個人	見えにくいならではの気付きを業務に活かして新しい挑戦をしていきたい	入選
6	寺島 崇央	個人	障がい身近に、そして自分事に 視覚障がい当事者として携わる障がい者雇用	入選
7	矢部 大	個人	「あなたはひとりじゃない」 リモート見守りサービス・デイズ	入選
8	葭原 遼男	個人	生涯チャレンジ！見える社会から、見えなくても大丈夫な社会に	入選
9	参天製薬株式会社	団体	インクルージョン社会実現に向けた挑戦 参天製薬のビジョン達成への取り組み	入選
10	木村 朱美	個人	届け！中央に。視覚障害者の熱い思い、関西で視覚障害者就労者への職業訓練創出をめざして	入選
11	新村友紀	個人	点字とIT技術を駆使して自分の表現を発信！第1詩集出版からみえた、物書きという可能性	入選
12	岡本 昇	個人	視覚障害者への情報機器操作講習 弱視の経験を活かした実践と研究	入選
アイデア部門入賞者（5名）				
No	応募者氏名	種別	タイトル	受賞名
1	西田 梓	個人	視覚以外の豊かさを知るきっかけ作り 新たなアイマスク体験を届けたい！	価値転換賞
2	神田 信	個人	引きこもりの人は視覚障害者の外出サポート 視覚障害者はその人の社会復帰への一助に！	価値転換賞
3	視覚障害者就労相談人材バンク	団体	就労経験を伝え、実際に会って話が聞ける 「視覚障害者就労事例データベース」	環境整備賞
4	木村 清乃	個人	小学生も目の不自由な方のお役に立ちたい	環境整備賞
5	前川 浩一	個人	オンライン会議用 ロービジョン・サポート・デバイス	ビジネスプラン賞
アイデア部門入選者（13名）				
1	伊藤ちか子	個人	もちもちとした米粉パン 作って食べて販売して米消費とアレルギー対応が皆が元気に	入選
2	若宮 正子	個人	視覚障害のある方によるオンラインでの話し相手や、音声による日本語学習支援	入選
3	小宮山智子	個人	視覚以外の感覚を研ぎ澄ませて評価！ ミシュラン*ミトラン（見とらん）ガイド	入選
4	山元正史	個人	視覚障害者セットの普及	入選
5	高山智是	個人	視覚障害者とオンライン街歩き体験 多様性を実感しよう	入選
6	近畿ロービジョン研究会	団体	みえかたカード	入選
7	TOA株式会社	団体	白杖使用者への3密対策の注意喚起放送機器	入選
8	松本葵	個人	視覚障害者たちで運営する子育て支援ホットライン	入選
9	井出智子	個人	merlingリスト内で発言するだけ！ 収入と仲間が得られ経済も活性化？	入選
10	井上直也	個人	視覚障害者の資格障害を解消 資格試験のバリアをなくすために	入選
11	前川 浩一	個人	眼鏡型 ロービジョン・サポート・デバイス	入選
12	東京医薬専門学校 視能訓練士科2年 医療現場学視覚リハビリテーション学専攻	団体	視覚障害のある幼稚園の先生	入選
13	竹田幸代	個人	見えない・見えにくい人も置き去りにしない SDGs応援団を目指して！	入選

isee! “Working Awards” 2021 受賞者発表・授賞式

日時：2021年2月28日(日) 13:30～15:30

開催方法：Zoomによるオンライン

参加者数：153名（うち受賞者33名、審査員8名、スタッフ7名、一般参加者105名）



(総評)

今回で5回目の募集でしたが、関係機関に募集案内を周知した結果、応募数が増えました。まだまだ多くの応募を期待していますので、今後も周知を進めたいと思います。毎年、応募いただいた内容については、事例、アイデアともに充実したものが多く、審査員からも高く評価をいただいています。受賞されなかったものについても、応募された内容を何らかの方法で公開できればとのご意見もいただきました。

今年の発表・授賞式は新型コロナウイルスのため、完全オンラインでの授賞式となりました。オンラインだったことで全国から多数の参加者があったことはプラスでした。受賞者本人から受賞内容の紹介をいただき、より発表者の思いを伝えることができました。授賞式終了後の受賞者同士の交流の機会が持てなかったことが残念に感じました。

受賞者の事例及びアイデアの内容については、公益社団法人NEXT VISIONのホームページで公開し、広く社会の人々に知っていただけるように情報発信をしています。また、事例とアイデアの内容、審査員のコメントを冊子にまとめた就労事例・アイデア集を作成し、広く本事業の内容を周知させるため配布を行っています。

2) サンキューカードを使った周知啓発

見えない、見えにくい方の移動を多角的に支援するために正しいガイドの仕方を一般の方に周知するとともに、一人でも多く就労・就学で困っている視覚に障害のある方を見つけることを目的に配布しました。また、視覚に障害のある方を見つけ、必要な情報・支援につなげる活動を見えない、見えにくい視覚に障害のある方にお手伝いいただくことで活躍の場を広げる効果もあります。



おもて面



うら面

配布する地域は視覚障害者の活動地域となるため全国であり、昨年度に引き続き、下記団体等を通じて配布しました。

- 特定非営利活動法人タートル
- 社会福祉法人日本ライトハウス 情報文化センター
- 社会福祉法人日本ライトハウス リハビリテーションセンター
- 国立神戸視力障害センター
- 堺市健康福祉プラザ
- 兵庫県視覚障害者福祉協会
- 日本網膜色素変性症協会
- 日本視覚障害者団体連合
- 神戸市立盲学校
- 兵庫県立視覚特別支援学校
- 埼玉県立盲学校
- 岡山県立盲学校
- 社会福祉法人神戸市社会福祉協議会
- 神戸市立点字図書館
- 非営利活動法人神戸アイライト協会
- HOYA ビジョンケアカンパニー
- 株式会社システムギアビジョン
- 株式会社尼崎眼鏡院
- HOT POT の会
- 三輪書店（「ポイントマスターロービジョンケア外来ノート」に付属）

(総評)

支えられる側であった視覚障害者が、サンキューカードを配布することで視機能に不安や障害を持つ人を掘り起こし、情報を伝えるといった新たな役割を担うことになりました。また、カードを配布された一般の方にとっては、視覚障害者への声のかけ方や手引きの仕方を知る機会となり、社会貢献の一助となる可能性が生まれたと考えます。

配布を継続するにあたり、本事業に賛同し協賛してくださる企業を探すことが次年度以降の課題です。

(5) 講演・セミナー事業

1) ロービジョンセミナー

「ポイントマスター！ロービジョンケア外来ノート」を所有している人を対象として、これをテキストとした web セミナーを6月から3月までの毎月1回行いました。本テキストを執筆した者を講師として、15分程度の講演を2本とその質疑応答を行いました。203名の通年会員と3名の単回会員を得ました。10回のセミナーの講義部分を編集し、第1回と第2回を公開、第3回以降の8回を会員限定として、YouTubeに公開し、総計で3460回の視聴が行われました。

2) ロービジョン支援ホームページの運用

理事の仲泊が2010年から積み上げてきたロービジョンケアの用語説明と施設リンクを目的としたホームページ (<https://www.shikakuriha.net>) をNEXT VISIONのサーバー上に移設しました。2021年3月までに19800件(2020年4月には16500件)のアクセスがありました。今後はNEXT VISIONのホームページから入れるようになる予定です。

3) 日本眼科医会連携

地方においては視覚障害者が最初に受診する可能性が高いのは地域の眼科クリニックであり、全国の眼科クリニックの開業医が所属する日本眼科医会と連携しました。iSee!運動での眼科医賞の追加や日本眼科医会のHPと連携などを通して開業医の眼科医への情報発信を強める予定です。

4) 視覚障害者体験 VR 研修

視覚障害者が周囲の人に自分が視覚障害者であり困難さを的確に伝えられない背景には、視覚障害の種類や困難さの多様性を周囲のメンバーが認識しにくい背景があります。VRを利用した教育コンテンツでは1人称で困難さを理解することができるため、支援者教育の強力なコンテンツとなり得るため、VRコンテンツの開発の指導を行い、教育ソフトを開発しました。今後リアルな研修が開催できる時期がきたら、研修コンテンツとして導入予定です。

(6) ビジョンパークを活かした情報発信

本事業は新型コロナ感染拡大対策のため行うことができませんでした。今後も状況を見ながらの実施になる予定です。

(7) みんなで作るビジョンパーク会議

寄附者、賛助会員、連携協力機関の方への活動報告と意見交換会をオンラインで実施しました。

2020/11/29 大感謝祭 2020 参加人数：62名

(内容) 活動報告

世界にひとつだけのストーリー (利用者インタビュー) 8名

支援者からの声 5団体

グループトーク (参加者による交流・意見交換会)

(総評)

寄附者、賛助会員は報告書等でNEXT VISIONで実施している事業、活動内容は知っていても、実際に利用者がどのように思い、生活が変化するかまでは知ることはできません。そこで今回は利用者ご本人に実際に活動に参加してよかったことや情報が得られた

ことで人生にどのような影響があったかなどお話いただくことで、NEXT VISION 事業やビジョンパークの役割について知っていただく機会になったと思います。

また、支援機関の方々からもビジョンパークでのアウトリーチ活動についてお話いただいたことで一般の方に、その機関が普段どのような活動を行っているかお知らせすることができました。

今後も NEXT VISION の活動やビジョンパークの役割を理解し、支援をいただけるよう情報を発信し続けることで法人の運営を安定させ、より多くの視覚に障害のある方と情報を必要とする方への支援活動を行いたいと思います。

II. 法人運営

1. 理事会

第16回 令和2年6月29日

議題

1. 令和元年度の事業報告及び計算書類の承認
2. 社員総会の招集と議案等の承認
3. 役員報酬規程の改定の承認
4. 理事の任期満了に伴う後任者選任の承認
5. 職務の執行状況についての報告

第17回 令和2年7月17日

議題

1. 代表理事1名選定の承認
2. 常務理事1名選定の承認

第18回 令和3年2月28日

議題

1. 令和3年度の事業計画及び収支予算・資金調達及び設備投資の見込を記載した書類の承認
2. 社員総会の招集と議案の承認
3. 職務の執行状況について報告

2. 社員総会

第15回 令和2年7月17日

議題

1. 令和元年度事業報告及び計算書類の承認
2. 役員報酬規程の改定の承認
3. 理事の任期満了に伴う後任者選任の承認

第16回 令和2年2月28日

議題

1. 令和3年度の事業計画及び収支予算・資金調達及び設備投資の見込を記載した書類の承認